

見慣れた街を水辺から。撮影:豊田直之

大岡川にかかる橋 多彩で個性的な訳

みなとみらいエリアに出ると、堀がなくなり岸と水面が近づき、しばし解放感にひたる。歴史と現在が混在するこのエリアのレポートは次回以降に。今回は、下流から再び橋をめぐる、桜棧橋に戻ることにする。

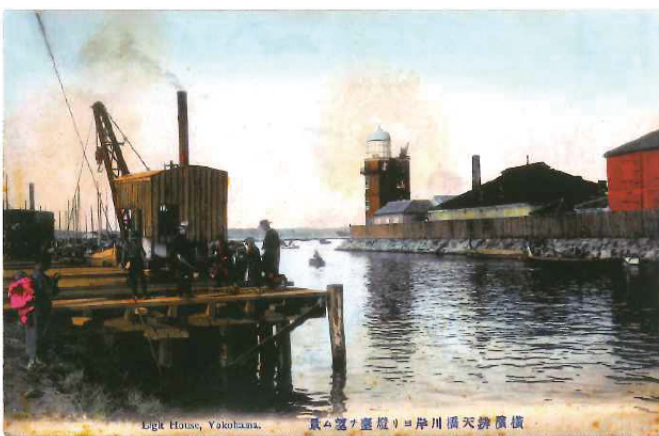
大岡川最河口部に位置する北仲橋から辨天橋の辺りまでは、なんとなく都会的雰囲気が続く。が、ここから上流は急速に無秩序さを増し

ていき、都橋を過ぎると、川沿いに弓状に張り出す奇妙な建物が現れる。都橋商店街ビルだ。

昭和39年の東京オリンピックの年、通りに並ぶ露天や屋台を収容するために造られたというこの建物。よく見ると、護岸の荷下ろし場だったことがわかる。レンガで埋め立てた護岸の上に建築されたのだ。よくぞ今日まで持ちこたえてきたものだ。

都橋商店街一帯のアーキーなアジア的風景が愛され続けるのは、水辺に価値を見だし活用する熱意と意気込みが強く感じられる、という点が大きいだろう。

ここから、都橋商店街の一部のような宮川橋。石造りのアーチ型の橋を思わせる



「辨天橋川岸より燈台を望む景」大正時代中頃(1918~1923年)の絵葉書。提供:河北直治

長者橋。人道橋という歩道が並ぶ旭橋。そして、白い橋桁の黄金橋へと続く。

1923(大正12)年の関東大震災で、都橋から上流に続くこれら5つの橋の全てが焼失、もしくは全壊した。

いたる所で起こった大火災を前に、運河や川は延焼を食い止める防火帯にはならず、避難を妨げる障害となってしまったのだ。

この時の経験から、生活道路が渡る狭い橋でも、耐震性を考えた不燃質構造の橋が造られることになった。

東京と横浜に造られた震災復興橋梁と呼ばれるこれらの橋が、高度成長期に造られた画一的な橋に比べ、重厚で個性的な姿である理



一昨年、横浜市の歴史的建造物に認定された「都橋商店街ビル」。撮影:豊田直之

由の一つに、このような歴史的背景があったのだ。

横浜市内で造られた178橋の震災復興橋梁のうち、現存するのが41橋。そのほとんどが大岡川、中村川にあるという。SUP探訪、ますます楽しくなりそうだ。

SUP新拠点、間もなく完成!



4月7日(土)に行なわれたプレオープンの様子。建設工事もうよいよ大詰め。撮影:豊田直之

京急線日ノ出町駅から黄金町駅の高架下一部に、日本初の高架下タイニーハウス建設中。水上アクティビティの拠点として、コミュニティスペースとして、宿泊施設と

して、水辺の街の活性化をバックアップしてくれるはず。「横浜SUP倶楽部」の艇庫とクラブハウスもここに。

<http://keikyu-tinyhousehostelyadokari.net/>

大岡川の「生き物みーつけた!」No.8 ミシシippアカミミガメ



緑日やペットショップで売られているミドリガメは正式名称をミシシippアカミミガメと言います。その名の通り北米産の外来種で、耳周



成長しても、首や手足の模様だけは幼い頃と変わらない。撮影:豊田直之

辺に鮮やかな赤い斑紋があります。幼体のミドリガメ時代は、子どもの手のひらサイズで姿も愛らしく人気があるのですが、飼育から数年で10cm以上になり、鮮やかな緑色は色あせてきます。「カメは万年」の言葉通り長生きで、上手に飼えば40年以上も生き、30cm程度まで成長します。

本全土で野生化してしまっ

たことが問題視されています。大岡川でも、カルガモやカンムリカイツブリのヒナが襲われるのが目撃されたそうですが、もともと日本に生息しているイシガメやクサガメの生息環境や日本固有の自然環境を脅かし増え続けたことで、今年1月、「要注意外来生物」に指定されてしまいました。

近年、飼育しきれなくなったものを川や池に捨てた結果、日

彼らに罪はありません。原因は私たち人間にあるのです。



冬眠明けの「甲羅干し」。うんと伸びて春を満喫! 発見場所:弘明寺付近 撮影:豊田直之

大岡川に、暮らす、働く、学ぶ、遊ぶ、人

「Women's Networking Cafe はる美」高村 典子(たかむら のりこ)さん

本紙取材中に「流域の話題女性」として度々お名前を聞き、「ぜひお会いしたい」と言う決まって「金曜日に都橋『はる美』

に行けば会えるよ」と言われてきた。

平日は虎ノ門のOLさんで金曜の夜は『はる美』のママ。休日



日替わりバー『はる美』。金曜日は『マツタリはる美』。撮影:豊田直之

は「横浜まちかど遺産探検隊」のメンバーとして、また、アート市民広報団体「TAEZ!(たえず)」のメンバーとして活動されている。高知県出身で『しまんと新聞ぱっく』のワークショップ開催もされている。

というから、エネルギーな女性を想像し、そのうえ都橋商店街初体験の記者……ドキドキしながらドアを開けると、穏やかで飾らない笑顔に迎えられた。意外にも脱力系の方だった。

『はる美』は、様々な事情や巡り合わせで、横浜市で働く女性のための交流会メンバーだった4人で2004年に開店。女性が野毛界隈で一人飲みできるようになった先がけと聞く。14年目の現在、曜日ごとに様々な老若男



横浜とアートを愛し、人と人とをつなぐ金曜日のママ。撮影:豊田直之

女が集う。『はる美』は私たちの壮大な趣味なの」と聞いて納得。

そんなものかもしれない。無理せず身を任せていれば、行くべき所、あるべき姿にたどりついてしまうものだ。

大岡川沿いを散歩して、時々『はる美』にたどりついてみたいと思う。

 **株式会社 太陽住建**
Taiyo Jyuken
☎0120-460-025 横浜市南区井土ヶ谷下町27-1-1階

横浜 一品香
CHINESE KITCHEN
株式会社 一品香
横浜市中央区長者町9-172(本社)
<https://www.ippinko.jp>

湘南太陽会グループは
人々の心とからだの健康を総合的に支援します。

湘南太陽会

毎日診療しているクリニック
鳥居泌尿器科・内科
【金沢文庫】

23時まで診療しているクリニック
Aoi 23 clinic 相生23クリニック
【関内】

駅前まで21時まで診療しているクリニック
ねぎし泌尿器科・内科
【根岸】

泌尿器科トラブルの総合カウンター
スカイビル 腎・泌尿器科クリニック
【横浜】

 **しえあひるずヨコハマ**
SHARE HILLS YOKOHAMA
居住空間と展望台のレンタルスペース
<https://www.facebook.com/sharehills/>

新車販売 車検 板金
加賀美 自動車
南区永田南1-4-10
045-741-7321
info@kagami-car.com